２０１３年度

緩和ケア認定看護師養成事業実施報告

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

久留米大学 KURUME UNIVERSITY 認定看護師教育センター EDUCATION CENTER FOR THE CERTIFIED NURSE

２０１３年度緩和ケア認定看護師養成事業実施報告

認定看護師(Certified Nurse)は、日本看護協会が認定する認定看護師教育機関の教育課程を修了し、同協会の認定看護師認定審査に合格することで、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた看護師です。

久留米大学認定看護師センターは、認定看護師教育機関として、認定看護師３分野（緩和ケア・がん化学療法看護・がん放射線療法看護）の教育課程を開講しています。

緩和ケア看護師を養成する緩和ケア分野では、2013年度は３０名が修了しました。学生は、「いのち」を支える質の高い看護を提供することを目標に学修に取り組みました。各科目の授業を通して、高度で専門的な知識と技術を会得し、患者さんとご家族に寄り添い、本来持つ力や希望を支えることが、ＱＯＬを向上させ「ただ一つの人生を最期までその人らしく生き抜くこと」の支援となると学びました。また、学生自身の看護観や死生観に向き合うことで、認定看護師としての精神を養うことができました。学生は、教育課程修了後もここで出会えた仲間との絆を大切にし、緩和ケアを広く浸透させるために研鑽を積みながら社会に貢献していきたいと考えています。

以下は、 修了生の学修成果として、「修了生報告」、「教員報告」、「事例集の概要」をご紹介します。

修了生報告（学びの成果、今後の活動予定・抱負など）

認定看護師教育課程の研修を終えて

雨森　優子

教育課程の半年があっという間に過ぎ、病棟に戻る時が近づいてきました。

半年間の教育課程で知識の学びを深めたことで、自己の課題を明確にすることが出来ました。また生涯の友や目標となる指導者の方に出会うこともでき、とても充実した時間となりました。

今後は明確になった自己の課題を少しずつ達成できるように努め、まずは認定審査合格を目標にまい進していきます。

このような学びの機会を与えてくださったことに感謝申し上げます。

今後の活動に向けて

宇戸　智子

早いもので、入学してから６か月が過ぎ、教育課程の修了を迎えました。

今後は、自施設に戻り、半年間で学んだ緩和ケアについての専門的な知識や援助の方法

をスタッフに伝えていきたいと思います。定期的な勉強会を行い、患者や家族が安心してその人らしく生きていくことができるように、みんなで学びを深めていきたいと考えています。そして、スタッフ全員で患者・家族に支援ができるように看護の質の向上に努めていきたいと考えています。

研修を支援してくださった日本財団の方々に心より感謝申し上げます。

認定看護師教育課程で学んだことと今後の抱負

尾﨑　正吾

認定看護師教育課程に入学する前の私は、看護管理や看護倫理は苦手分野でした。しかし、認定看護師教育課程では緩和ケアの知識や技術だけでなく、看護管理、看護倫理、リーダーシップ、コンサルテーション、チームアプローチなど認定看護師として必要なことを学ぶことができました。今後は、習得した知識や技術を活用し、組織の中でスタッフと協力しながら認定看護師としての能力を発揮していきたいと思います。

最後に多大なるご支援とご協力をいただきました日本財団の皆様に深く感謝いたします。

緩和ケア認定看護師教育課程を終えて

尾﨑　昌子

この 6 か月間、緩和ケアについてはもちろん、リーダーシップやコミュニケーション、対人関係など、多くのことを学びました。今後、その学びを活かして、まずは私自身が患者・家族へ質の高い緩和ケアを実践していくこと、そして周りのスタッフが自信を持って看護できるように、支援していくことを考えています。資格を取得後は、自施設だけではなく、地域に向けて緩和ケアについて発信できるように、活動していきたいと考えています。

この貴重な６か月間を受講するにあたり、多大なるご支援をいただいた日本財団の皆様に心より感謝申し上げます。

認定看護師教育課程終了後の活動

川上　恵子

私は、認定看護師教育課程を終え 12 月から約 200 床の公立病院（急性期）内科病棟に復帰予定です。一般病棟で緩和ケアを必要とする患者・家族に対し認定看護師教育課程で学んだ事を生かせるように努力しようと思っています。具体的な活動は、認定審査合格後になりますが、院長はじめ看護部長と話し合いながら院内での緩和ケアへの体制を整えていけるよう積極的に取り組んでいきたいと考えています。認定看護師教育課程での貴重

な学びにおいて、多大なご支援をいただきました日本財団の皆様に深く感謝いたします。

認定看護師教育課程修了後の活動

倉本　麻美

私は急性期病院に勤務しており、その中で緩和ケアの専門的知識・技術の修得の必要性を感じ、緩和ケア認定看護師を目指すことを決めました。教育課程を修了し、自施設に戻った際には、まず施設職員の緩和ケアについての知識・技術の底上げ、各病棟における困難事例についてのコンサルテーションに取り組んでいきたいと考えています。また、患者・家族の QOL が向上し安心して療養できるように関わることができる、看護師の支えになりたいと思っています。最後に、ご支援いただきました日本財団の皆様に感謝いたします。

認定看護師教育課程での学びと今後の抱負

清水　里加

入学してからは、課題や試験勉強に追われる日々が続き、振り返るとあっという間に 6 か月が過ぎました。講義では看護管理、指導、相談など認定看護師に必要な知識を学び、自分の考えを言語化することの難しさに苦悩しました。実習では、改めて患者・家族に寄り添うことの大切さを学ぶことができました。

私は緩和ケア病棟に勤務しています。今後、患者・家族を的確にアセスメントし、看護実践を通して病棟の看護の質の向上に努めていきたいと思います。

このような学びの機会を与えていただき日本財団の皆様に感謝申し上げます。

緩和ケア分野での学び

相田　智恵子

私は、教育センターでの教育期間の中で多くの知識と経験を得ることができました。同じ志を持つ仲間に刺激されながら、視野を広げる事が出来たと感じています。これからは、自施設で患者が自身の生活を諦める事なく過ごしていけるように、支援できる認定看護師になれるよう努力していきます。多大なご支援を頂きありがとうございました。

教育課程を修了にあたり

染矢　麻衣子

緩和ケアを学んだ濃厚な時間が終わろうとしています。私は、訪問看護に従事しており、地域住民の方々・介護サービス事業所とともに地域で支える緩和ケアの質の向上を図って

いきたいと思います。そのためには、まず、母体病院の認定看護師との連携をとり継続看護を行いたいと思います。対象者ひとり一人との出会いや繋がりを大事にし、在宅で最期を迎える体制作りを行いたいと考えています。

今後は、上司や他の認定看護師と相談しながら実践に結びつけていきたいと思っています。

最後になりますが、この課程での学びの機会を与えてくださった日本財団の皆様に感謝申し上げます。

認定看護師教育課程終了後の今後の活動

高橋　貴子

訪問看護師として在宅の現場において、がん看護の重要性を深く感じてきました。がん患者が在宅で安心して暮らせるように、半年間の認定看護師教育課程で医学的判断の根拠となる多くの知識を得ることができました。今後は訪問看護師をはじめ介護支援専門員や介護職員の育成のための取り組みが必要です。地域で研修会を開催し、他職種連携を図り、病院と同様にチームでがん患者の体と心と生活を支えていきたいと考えております。

このような学びの機会を与えていただき心より感謝申し上げます。

認定看護師教育課程を終えるにあたっての今後の課題

髙山　朋子

私は、総合病院、独立型ホスピスを経て、現在は在宅療養支援診療所に勤務しています。それぞれの医療機関のメリット、デメリットがあります。しかし、緩和ケアを必要とする利用者とご家族の希望と生活を支えていくことに変わりはありません。その支えが途切れないよう繋いでいくために調整を図り、地域における緩和ケアの質の向上にむけ、取り組んでいきたいと思います。この学ぶ機会を与えていただいたこと、心より感謝申し上げます。

認定看護師教育課程修了後の活動

竹山　美穂

私は、久留米大学認定看護師教育課程を修了し緩和ケアに対するたくさんの知識と技術を深めることができました。卒業後は、この知識と技術をスタッフと一緒に共有し質の高い看護を提供することで、患者や家族が安心して生活できるようにしていきます。

今後は患者や家族、スタッフから信頼される認定看護師として活動できるように認定審査に向け頑張っていきます。

このような機会を与えて頂いた日本財団の皆様に感謝申し上げます。

認定看護師教育課程を終えて

田中　香織

私は、久留米大学認定看護師教育課程に入学し、新たな知識・技術をはじめ、ケアの根拠や有効性、どのように実践に用いるのかなど多くのことを学ぶことができました。また、看護だけでなく人となりを考える期間でもありました。6 か月間、多くの人の支えにより得られた貴重な財産であることに感謝し、自己研鑽を惜しまず、今後の看護につなげていきたいと思います。教育期間中、多大なるご支援をいただき心より感謝申し上げます。

認定看護師教育課程の研修を終えて

田中　淑子

久留米大学認定看護師教育課程に入学し、この6か月間で意味付けをすることや物事を深く追究することの大切さを学ぶことができました。その中でも、私自身と向き合うことができた貴重な時間でした。自施設では、これから緩和ケア病棟が開設される予定です。その中で今後の課題として、6 か月間で学んだ専門的知識・技術を活かし、実践を積み重ねながら看護の質の向上に貢献していきたいです。また多職種と協働して患者・家族にとって「ここの病院で良かった」と思っていただける患者中心の看護を提供してきたいと思います。

最後になりましたが、多大なるご支援をいただきました日本財団の皆様に心より感謝申し上げます。

認定看護師教育課程を受けての今後の抱負について

安村　知佳子

私は主に積極的ながん治療を実施している病院に所属しています。都道府県のがん拠点病院として地域と連携をとりながら緩和ケアを推進していく役割を担っています。「がんと診断されたときから」と謳われていますが、まだまだ一般の方たちへの認知は低く、終末期医療のイメージが強いと思います。今回、緩和ケア病棟へ実習に行ったことで、がんと診断された時から最期の時までの患者さんが病気と対峙する姿を目のあたりにすることができました。自施設の地域での役割を認識しながら、一人一人の患者さんとの時間を大切に過ごすことを心がけたいと思います。

これまでご支援をいただきました日本財団の方々にお礼を申し上げます。

認定看護師教育課程終了後の活動

徳永　浩子

私が所属する病院は，県指定のがん診療連携拠点病院です。６か月間の認定看護師教育課程終了後は、病棟に所属せずに緩和ケアチームの専従として勤務する予定になっており、チーム内での活動の充実を行っていきたいと考えています。また、緩和ケア外来の診療介助や患者とその家族に全人的なケアができるように関わっていきたいと思います。

まずは、認定審査に合格し、患者とその家族に最新の知識・技術を提供できるように自己研鑽していくことが必要であると考えています。

最後に日本財団の皆様のご理解と多大なご支援に心から感謝いたします。

認定看護師教育課程での学びと今後の抱負

Ｎ・Ａ

久留米大学認定看護師教育課程では、緩和ケアや認定看護師としての知識を多く学ぶことができ、また自分自身を振り返る機会になりました。入学するまでは「自分が」という思いが強くありましたが、今では仲間の中での自分の立場を考え、みんなで成長していこうと考えるようになりました。今後は、自施設での自分の立場を明確にし、スタッフと共に緩和ケアの質の向上の努めたいと考えます。

ご支援をいただきました日本財団の方々に心より感謝申し上げます。

認定看護師教育課程を修了するにあたり

永田　美加

私は緩和ケア病棟に勤務しています。勤務するなかで迷ったり、悩んだりすることが多く久留米大学認定看護師教育センターへの入学を決めました。この６か月間で緩和ケアについて深く学ぶことができ、臨地実習では、患者さんを全人的にとらえるために何度もアセスメントを繰り返しました。今後は自施設に戻り、ここで得られた知識や経験を生かし患者や家族が安心できる看護の提供を行いたいと思います。

このような学び多い機会を与えてくださった日本財団の方々の多大なるご支援に、深く感謝申し上げます。

初心を忘れず

Ｎ・Ｍ

私は認定看護師教育課程で学ぶなかで、自分の限界に気付き、自分自身と向き合い、弱みと強みを見つめることができました。私は、理想とする緩和ケア認定看護師には、まだ

まだ遠い道のりであることを講義や実習を通してわかりました。これから、教育センターでの学びをさらに深め、まずは認定看護師の資格試験合格を目指します。看護の力でがんの症状に苦しむ患者に対して、緩和ケアの援助をしたいという認定看護師を目指した初心を忘れずに、今後も自己研鑽に励んでいきます。

最後に、研修を支援して下さった日本財団の方々に心より感謝申し上げます。

今後の抱負

新内　香菜子

認定看護師教育課程では、緩和ケアに関する知識だけでなく認定看護師として必要な知識や技術を学びました。自施設に戻った際は、6 か月で学んだ知識や技術を活かして、患者・家族、ともに働くスタッフのために、自分にできることを精一杯やっていきたいと思います。そして、患者・家族が当院に来てよかったと思ってもらえるような緩和ケアを提供できるように、努力していきたいと思います。

認定看護師教育課程を受講するにあたり、多大な支援をしてくださいました日本財団の方に深く感謝を申し上げます。

認定看護師教育過程を終えて

根〆　詩織

卒業後、私は一般病棟で緩和ケアを実践していきます。教育課程で知識を深めるにつれて、がんの診断時から緩和ケアが必要であることを実感し、自施設のスタッフの緩和ケアに対する意識を高め、協力して実践していかなくてはならないと思いました。また、この半年間で学んだ、悲嘆・喪失へのケア、最期の瞬間までその人らしく生き抜くための知識・技術を患者・家族、共に働く仲間たちへ提供していきたいと思います。

今回、緩和ケア認定看護師を目指すにあたり、日本財団の皆様方の多大なるご支援，ご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

認定看護師教育課程終了後の活動報告

野中　由美

私は、急性期病院に勤務しています。半年間の認定看護師教育課程を終えた後、入学前と同じ部署へ戻り、手術や化学療法を中心とした治療期の患者を支えていくことになります。入学までの私は、目の前にある処置やケアに追われ日々、ジレンマを抱えながら勤務していました。しかし、教育課程の中で、緩和ケアは場所を選ばないという学びを得るこ

とができました。今後は、同じような気持ちを抱えながらケアに当たっているスタッフを支え、患者・家族を支えていく活動を行っていけるようにとり組んでいきたいと考えています。ご支援いただきました日本財団の皆様に感謝いたします。

認定看護師教育課程を修了後の活動

樋口　愛子

久留米大学認定看護師教育課程緩和ケア分野での学びを終えて、入学前から課題としていた緩和ケアチームの活動を検討し直そうと考えています。私は緩和ケアチームに所属しており、今後、より充実した活動ができるように看護部長や副看護部長と共に、組織の中での緩和ケアチームの位置やメンバーの構成などの検討を行う予定です。患者が外来でも入院しても、緩和ケアを切れ目なく、受けることができるように努めていきたいと考えています。最後にご支援していただいた日本財団の皆様に深く感謝いたします。

教育課程での学びと今後の抱負

廣瀬　亜由美

認定看護師教育課程での半年間、専門的知識や実践力とともに、倫理観、教育・調整能力など認定としての役割、姿勢を学ぶことができました。まずは、認定審査に合格することを目標とし、今後は在宅緩和ケアに携わった経験を活かし、地域での緩和ケアに対する啓発活動へも積極的に関わっていきたいと考えています。そして、病院と地域がつながり、患者・家族がどこに居ても安心して過ごしていただけるように努めていきたいと思います。

最後になりましたが、ご支援いただきました日本財団の皆様に、深く感謝申し上げます。

認定看護師教育課程終了後の活動

廣畑　由美子

私は、急性期一般病棟で勤務しています。久留米大学認定看護師教育課程の６か月で、緩和ケアに必要な知識を深めると共に、自己の課題について考えることができました。

当院の看護部の基本方針に「患者の意思決定の支援」が挙げられています。学んだ知識をもとに患者と家族の意思決定の支援を行い、そのうえでさらに地域に貢献していくことができればと考えています。自己の課題は多いですが、スタッフと協力しながら、活動を深めていきたいと思います。

最後になりますが、研修にご支援いただきました日本財団の皆様に心より感謝申し上げます。

認定看護師教育課程終了後の活動

松尾　未永子

私は、がんと向き合う患者・家族に対して体と心の痛みを和らげ、その人らしく過ごせるように援助できる、認定看護師を目標としています。私が勤務するのは、内科・泌尿器科・整形外科などの一般混合病棟です。緩和ケアは場所も人も選びません。今後自施設に戻った後は、患者・家族の安寧が図られるように、スタッフと共に精力的に活動を続けていきたいと考えています。

そして緩和ケア認定看護師教育課程に対し、日本財団の皆様方の多大なるご理解とご支援に、心から感謝を申し上げます。

久留米大学認定看護師教育課程で学んだ６か月

宮﨑　浩一

振り返れば長かったようでとても短い６か月でした。辛いこともありましたが、側で支えてくれた家族や、共に苦楽を共にした仲間、そして厳しくも温かく見守ってくれた先生の指導もあり、無事に乗り越えることができました。その間、認定看護師としての使命や様々な知識を学ぶことができました。今後自施設に復帰し、学んだ知識や技術を活用してスタッフへの指導を行い、その上で、施設や地域に貢献していきたいと思います。

最後にご支援をくださいました日本財団の方々に深く感謝しています。ありがとうございました。

認定看護師教育課程の学びと抱負

山﨑　和子

私は、認定看護師教育課程で緩和ケアの専門的な知識を学び、患者とその家族に対して質の高い看護を実践する能力を身につけたいと勉学に励みました。教育課程の修了を迎え、今は緩和ケア認定看護師として求められるものが想像以上に多く、今後活動していく責任とプレッシャーを感じています。しかし、焦らずに一歩一歩進んで行きたいと思います。まずは認定審査合格を目指して頑張っていきます。

最後になりますが、今回の研修にご支援くださいました日本財団の方々に心から感謝申し上げます。

認定看護師教育課程の学びとこれからの抱負

山本　千春

夏の暑さに耐えながら始まった半年間の研修が、冬を前に終わろうとしています。研修

中は仲間と共に多くのことを学び、また自分自身に向き合い、自分の看護について見つめ直す機会になりました。私はこれからまた自施設に戻り、一般病棟での緩和ケアを実践していきます。認定審査合格へ向けての学習を継続しながら、自施設および地域の緩和ケアの浸透と向上のために、自分の役割を自覚し努力していきたいと思います。

最後になりましたが、多大なるご支援を頂いた日本財団の皆様に深く感謝いたします。

学びとこれからの抱負

吉田　奈津美

私は、認定看護師教育課程に入学し、症状マネジメントやコミュニケーション、チームアプローチなど水準の高い看護実践スキルを学ぶことができました。また、実習を通して自身の看護観や死生観を振り返り、患者を見つめることの重要性に気づかされました。今後は自施設に戻り、緩和ケアサポートチームでの活動を通して、共に働く看護師の役割モデルとなれるように取り組んでいきたいと思います。

認定看護師教育課程を受講するにあたり、多大なるご支援をいただいた日本財団の方々に深く感謝いたします。

教員報告（2013 年度認定看護師教育課程の修了をむかえて）

久留米大学認定看護師教育課程では、患者・家族の QOL の向上に向けて水準の高い看護を実践し、さらに他の看護職者に対して支援ができる、認定看護師の育成を目的にしております。おかげさまをもちまして所期の目的を達成し、11 月 29 日に修了式を終えることができました。これもひとえに日本財団の皆様の、緩和ケアに対するご理解とご支援による賜物と深く感謝申しあげます。修了生は、この 6 か月間で専門的知識・技術を学び、それぞれの自己の課題を明確にすることができました。今後、がん医療の一翼を担う認定看護師として研鑽を続け、看護の質の向上に大きく寄与してくれるものと、私どもは期待しております。また、教員も修了生の支援にむけて努力を重ねていきたいと決意を新たにしております。今後とも、ご指導を賜りますようお願い申しあげます。

久留米大学認定看護師教育センター
センター長　三橋 睦子
緩和ケア分野教員　青木 富美江、近本洋子

事例集について

緩和ケア認定看護師養成事業の成果物として事例集を作成しました。
学生が学びを深めるべく、実習で行った看護実践を振り返り考察した事例を収録したものです。各学生の事例テーマは以下の通りです。

1　スピリチュアルペインとその奥にある想いの考察　（ 雨森 優子 ）

2　患者の思いを見つめて学んだこと　（ 宇戸 智子 ）

3　家族の心残りが少ないケアを目指して　（ 尾﨑 正吾 ）

4　看取りへの家族ケア
　―一人ひとりの家族の想いに寄り添って―　（ 尾﨑 昌子 ）

5　終末期患者・家族との関わりの中で学んだこと
　―思いの表出に対するケア―　（ 川上 恵子 ）

6　終末期患者の生きる希望を支える看護　（ 倉本 麻美 ）

7　先入観を持たないことで見えてきた患者の思い
　―患者の声に耳を傾けて―　（ 清水 里加 ）

8　生き方の質向上へのアプローチ　（ 相田 智恵子 ）

9　母親らしさを見届けたい家族との関わりを通して
　―終末期患者の家族のエンパワーメントを引き出す―　（ 染矢 麻衣子 ）

10　「人を援助すること」の意味を考える　（ 高橋 貴子 ）

11　エンドオブライフ移行期における意思決定支援　（ 髙山 朋子 ）

12　せん妄症状にある患者の孤独感に寄り添って　（ 竹山 美穂 ）

13　患者に内在する思いを支える看護
　―感情交流の重要性―　（ 田中 香織 ）

14　最期まで「生きる希望」を持ち続けた患者とその家族との関わり　（ 田中 淑子 ）

15　症状緩和が困難な患者の生きる意欲につながる看護について　（ 安村 知佳子 ）

16　患者の希望をみいだす看護　（ 徳永 浩子 ）

17　患者中心のケア
　　―患者の思いを尊重したケアを通して―　（ N・A ）
18　寄り添うことでその人らしさを支える　（ 永田 美加 ）
19　終末期がん患者・家族の思いに寄り添って　（ N・M ）
20　傾聴することでみえてきたこと　（ 新内 香菜子 ）
21　散歩を通して見えた家族の心の揺れ　（ 根〆 詩織 ）
22　傍に寄り添うということで学んだこと　（ 野中 由美 ）
23　患者と家族の心をつなぐ看護　（ 樋口 愛子 ）
24　寄り添う姿勢から学んだこと　（ 廣瀬 亜由美 ）
25　その人らしさを尊重した関わり　（ 廣畑 由美子 ）
26　傾眠状態にある患者の尊厳を支える援助　（ 松尾 未永子 ）
27　患者との信頼関係構築の重要性
　　―介入方法の検討を振り返って―　（ 宮﨑 浩一 ）
28　家族への働きかけを通して患者を支える
　　―関わりを望まない患者を受け持って―　（ 山﨑 和子 ）
29　日々の楽しみを見い出すための支援
　　―身辺整理を済ませた患者との関わりを通して―　（ 山本 千春 ）
30 信頼関係の構築と思いの表出　（ 吉田 奈津美 ）

入　学　式

授　業　風　景

授　業　風　景

事　例　発　表　会

修了式（修了証書授与）

修　了　式

Supported by
日本財団
THE NIPPON FOUNDATION

久留米大学

久留米大学認定看護師教育センター

〒830-0003
福岡県久留米市東櫛原町７７７－１
TEL (0942)31-7871
FAX (0942)31-7868